平成 24 年度

＜農業生産法人、集落営農組織の育成に取り組む事例＞

○潤いと安らぎに満ちた中山間集落を目指して

１．集落協定の概要

市町村･協定名	岩手県一関市藤沢町　深萱京ノ沢（いちのせきしふじさわちょう　ふかがやきょうのさわ）			
協定面積 33.2ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稲、飼料作物			
交付金額 592万円	個人配分			45%
	共同取組活動（55%）	農道・水路の維持管理費用		29%
		農用地の維持管理費用		19%
		その他（共同機械購入等）		7%
協定参加者	農業者　５人、アグリランド深萱（構成員42人）			開始：平成12年度
人･農地プランの作成状況	作成していない（話合いを実施中）			

２．取組に至る経緯

深萱京ノ沢集落は、平地に比べ、自然的条件が不利な地域であり、高齢化や担い手不足による多面的機能の低下も懸念されたため、集落での話合いを通じ、「潤いと安らぎに満ちた集落」を目指し、12 集落で協定を締結し、中山間地域等直接支払制度第１期対策の取組を始めた。

その後も、耕作放棄地の発生防止とともに、美しい農村景観を維持するため、第２期対策では、新たに１集落を加えた 13 集落を１つの協定に統合し、第３期対策では、新規協定参加者を２名増やすなど、協定農用地を拡大しながら取組を継続している。

３．取組の内容

平成 18 年度に、岩手県一関地方第１号として組織された集落営農組織「アグリランド深萱」（経営面積 35.0 ha、うち中山間協定農用地 31.3ha）は、集落営農の核として農作業受託や農地の利用調整等に取り組んでおり、作業受託面積は、11.6ha（平成 21 年度）から 14.2ha（平成 23 年度）へ増加している。

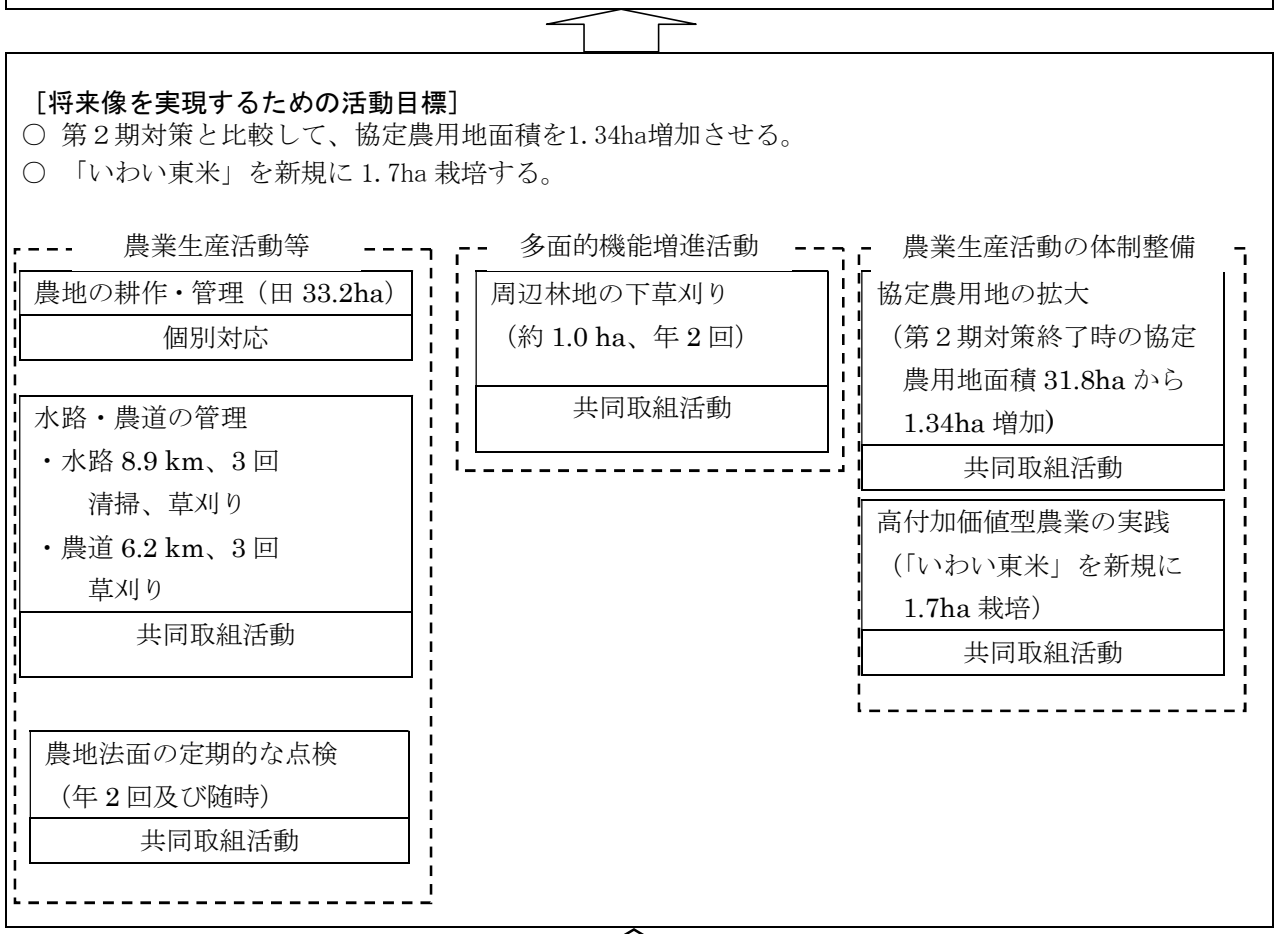
特に、美しい農村景観の保持に力を入れており、年５回、協定参加者全員で、農道と水路の保全管理活動や周辺林地の下草刈り等を実施し、農業基盤の維持と農村景観の維持・向上を図っている。

また、高付加価値型農業として、減農薬のブランド米「いわい東米」を栽培している。

【自治会との連携による農道維持管理】

【排水路の維持管理】

［集落の将来像］
○ 耕畜連携による飼料作物・飼料用米の団地化や、地域振興作物の栽培拡大等により、経営基盤を強化しながら、集落営農組織「アグリランド深萱」の法人化を目指すとともに、「アグリランド深萱」を中心として、集落全体での地域農業を確立する。



集落外との連携
○　深萱自治会と連携し、農道の維持管理作業（草刈り）を実施。

４．今後の課題等

高齢化のため、今後、個々に農業生産活動を継続できない農家の増加が予想される中、集落営農組織「アグリランド深萱」が中心となり、耕畜連携による飼料作物・飼料用米の団地化や、地域振興作物の栽培拡大等により、経営基盤を強化しながら、２～３年後の法人化を目指していく。

［第２期対策の主な成果］
○ 担い手への農作業の委託による経営基盤強化（H17:0ha、H21実績:4.6ha）
○ 共同取組活動による農業基盤の整備及び農村景観の維持
・農道、水路等の整備
・集落営農組織の設立